

【ワークショップ】 2022/12/3 (土)

山里社会における

生業の多様化と個性の時代

― 近世・近代の下伊那地域 ―

■会場

飯田市上郷公民館 講堂

■日時 2022/12/3 (土)

■参加方法と申込方法

1) 会場参加 (定員 50名)

2) オンライン参加

・参加無料。

・お申込は、電話・FAX・Eメールにて
飯田市歴史研究所まで参加方法と電話
番号をお知らせください。(12/1締切)

上記のQRコードからもお申込みいただけます。



■プログラム 10:00-16:30

報告 樋口貴彦(東洋大学) | コメント 鈴木利友(武庫川女子大学)

遠山谷の山地性集落の集落景観―焼畑地と家屋の関係について

報告 角和裕子(世田谷区立郷土資料館) | コメント 町田哲(鳴門教育大学)

下伊那郡清内路村と周辺地域における櫛生産

報告 太田仙一(飯田市歴史研究所) | コメント 小島庸平(東京大学)

王子製紙による山林開発と遠山地域社会―地域経済への影響に着目して

報告 吉田ゆり子(東京外国語大学) | コメント 森下徹(山口大学)

遠山谷の集落と生業―近世和田村を中心として

共同研究「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(JSPS 科学研究費助成事業基盤研究(A) 課題番号 20H00025)は、国土の7割近くを占める森林資源が、日本社会の構造的変化に多大な影響を与えてきた事実を、近世・近代の南信濃「伊奈山」をめぐる政治権力・山里の社会集団・都市商人・産業資本との諸関係、山と里との労働力と物資の循環、環境変化・災害、文化的景観の形成に注目しながら総合的に研究し、「林制史」「林業史」には止まらない社会構造史研究を進め、今日の文化的景観が形成されるに至った地域固有の歴史的過程を明らかにすることを目的としておこなっています。

今回のワークショップでは、近世・近代の下伊那地域で営まれた生業とその担い手である社会集団に焦点を当て、遠山谷や清内路の集落景観を生んだ自然や人々の営みを歴史的に検討し、今日の下伊那地域の特性が形成された社会的背景について議論します。

■主催 JSPS 科学研究費助成事業基盤研究(A)「南信濃山里社会の文化的景観とその歴史的形成過程に関する基盤的研究」(代表 吉田ゆり子) / ■共催 飯田市歴史研究所 / ※新型コロナウイルス感染症の拡大状況により、変更が生じる場合があります。



飯田市歴史研究所

〒395-0803 長野県飯田市鼎下山538

TEL 0265-53-4670 FAX 0265-21-1173 E-mail iih@city.iida.nagano.jp